

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

別添資料5

公表:2021年3月1日

事業所名 発達支援ルームピースプラント

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		子ども一人当たり6.26㎡の床面積を確保、更衣室、カムダウンを設けている。	今後も安全面に配慮しながら運営を行う。
	2 職員の配置数は適切である	○		保育士等を常時3名以上指導スタッフとして配置している。	他店舗と連携を取りながら運営を行う。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構成化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		絵カードなど視覚支援などの設備も完備している。移動手段は階段とエレベーターがあり、必要な方には介助をしている。	個別療育の為、利用児童に合わせた関わりを行っていききたい。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		業務前に職員が清掃する事や空気清浄器を常に完備している。	確実に清掃を行い、子ども達が活動をしやすい環境で行う。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		全職員が同じシステム、同じ意図を持って支援にあたるように月2~3程度の研修で適宜意見交換を行っている。	他店舗と情報交換をすることや職員間での意見交換を行う。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		年度末にアンケートを記入して頂く。毎回、保護者の方には見学をして頂いている為、情報共有は出来ている。	今後も毎年アンケートで保護者の方に記入して頂き、療育の中で参考にする。また、療育前後で保護者の方と情報共有を取り、共有する。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページにて掲載している。	今後も保護者の方へ分かりやすい形で提示を行う。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	月2~3程度の研修を実施している。しかし、コロナの影響もあり、外部からの評価は難しい。	外部講師の方を招いた研修(コロナの状況に応じて)や他店舗との情報交換を行い、改善できる機会を設ける。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		自主的に外部研修をスタッフが受けに行く機会を設けているが、コロナの影響でほとんど実施できていない。月2~3程度の会社内の研修を実施している。	外部講師の方を招いた研修(コロナの状況に応じて)や外部研修を受けたスタッフとの情報交換できる機会を設ける。
	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		年に一回以上、確実にモニタリングを行っている。日々の療育のフィードバックにて保護者の方と情報共有している。	保護者の方と情報交換を行う中で、計画や療育を行う。
11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	標準化されたアセスメントツールは使用していない。	職員間で評価にずれがないよう、情報共有を行う。	
12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		運動・スポーツ指導を利用し運動機能の改善に留まらず、コミュニケーションスキルやソーシャルスキルの獲得、向上にも力を入れている。また、そのノウハウを、同席していただいている保護者の方と共有する事に力を入れている。	運動機能以外にもコミュニケーションスキルやソーシャルスキル等の様々な能力を保護者の方と共有し、子どもの成長を促す。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		児童発達支援計画に沿った関わりやプログラムを行い、支援している。	児童発達支援計画に基づき、子どもの成長を支援する。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		全利用者の指導方法をスタッフ全員で共有する機会を設けている。	成長に合わせた関わりや指導方法をスタッフで共有し、子どもの成長に繋げる。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		指導者だけがプログラムを決めず、子どもらの主体性や自立性からプログラムを提供する為、固定化しないよう工夫している。	今後も様々なアイデアから活動プログラムの立案を行い、子どもの成長に繋げる。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		保護者へのアンケート調査や聞き取り調査をもとに個別指導や集団指導などを行っている。	保護者からの聞き取りから児童支援計画を作成する。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		必ずその日の利用する子どもの指導担当のスタッフを割り振り、役割分担を確認している。また、毎朝ラインメッセージにて全店舗での予定の把握を行っている。	今後も職員同士で話し合う時間を多く設ける。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		指導スタッフが全スタッフの前で感想、気づき、問題点などを発表し共有している。	今後も職員間で情報を共有し、子どもを支援していく。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		利用実績記録表と併用して、ひとりひとりの指導記録を記入している。	今後も継続し記録を確実に記入する。
関係機関	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		6か月に1度の割合で聞き取り調査などで保護者の方と会話の時間をつくっている。また、必ず保護者の方が指導現場に同席されているので、毎回の利用で意見交換を実施している。	今後も保護者の方と情報交換を積極的に行い、児童支援計画を作成する。
	21 障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した親もふさわしい者が参画している	○		担当者会議の前に、職員で情報共有をしてから参加している。	子どもの情報を普段から職員に共有できるようにする。
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		○	特に実施していない	今後実施していきたい。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		医療ケアの必要な児童の利用が無い。	医療ケアの必要な児童の利用が無い。
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		医療ケアの必要な児童の利用が無い。	医療ケアの必要な児童の利用が無い。
25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		同伴されている保護者から随時情報を提供して頂いている。また所属されている施設からの見学もあり、支援の理解を共有している。	今後も保護者の方と情報交換を行い、支援の理解をして頂けるようにする。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
や保護者との連携関係機関や保護者との連携	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		引き続き放課後等ピースプラントとして利用を継続して頂くことも可能。他の事業所との情報共有もしている。	今後も継続し子どもの支援を促す。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		大阪市内の発達障害児をサポートする団体が集まる「ホットメールなにわ」の会合に定期的に参加し、情報収集している。	ピースプラント以外での情報を仕入れ、支援に繋げる。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	障がいのない子どもと関わる機会は少ない。	障害の無い子どもとの交流機会はあまり設けていない。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		大阪市都島区の地域自立支援協議会児童部会には定期的に参加している。	今後も定期的に参加し、情報を共有を行う。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		指導場面に同伴されている保護者の方とは、毎回の利用の際に充実した意見交換を行っている。	今後も子どもの状況など把握できるように情報交換を行う。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○	ペアレントトレーニングは実施していない。	運動・スポーツに関する相談だけでなく、成長に役立つ情報をお伝えしている。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		館内掲示とともに毎回の契約時に適切な説明、理解を実施している。	不明な点が無いように保護者の方と確認を取りながら、説明を行っている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		支援計画を説明時に保護者の方に確認してもらいながら説明をしている。	今後も保護者の方に理解されやすいように説明を行う。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保育士や作業療法士などの専門的な職員を中心に随時適切な相談、助言を実施している。	保護者の方の悩みに対し、相談や助言が出来るように支援を行う。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	コロナの影響もあり、開催が難しかった。	今後は機会を作り(コロナの状況により)、保護者の方に参加して頂くように呼びかけを行う。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		児童発達支援管理者を中心に苦情に対しては、即時対応するようにしている。	今後も即時対応できるようにする。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		SNSやアンケートの結果を開示し、利用者に運営の意図や現状報告を知らせている。	今後も保護者の方に情報を開示し、説明を行う。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		確実に施錠できるロッカーに保管している。	施錠に忘れが無いように職員で確認を行う。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		毎回の利用時に必ず、保護者との直接会話の時間を作っている。	時間のある限り保護者の方との情報交換の時間を確保する。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	勉強会など参加しやすいようにしている。	コロナの状況を踏まえて、ピースプラント主催の勉強会や講演会を開催する。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		年に1回以上、利用してきている児童と保護者同伴で、時間を取り、実施している。	今後も実施していきたい。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年に1回以上、利用してきている児童と保護者同伴で、時間を取り、実施している。	今後も実施していきたい。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		事前に同伴する保護者の方に確認を行っている。	保護者の方に確認を行いながら、活動を進める。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		基本的に食事の提供をしていない。	今後もそのような機会があれば、アレルギーの有無を確認し、いた場合は指示書を提出してもらおう。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ファイリングし、全てのスタッフが確認出来るようにしている。	ヒヤリハットを職員で共有し、改善できるようにする。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		月に一度の全体ミーティングにて研修を行うなどし、周知している。	全体ミーティングを通し、研修で学んだことを全職員で共有する
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		同伴する保護者がいる為、身体拘束が必要な利用者はいない。	保護者の方に確認を行う。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

別添資料5

公表:2021年3月1日

事業所名 発達支援ルームピースプラント3くみ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		子ども一人当たり6.26㎡の床面積を確保、更衣室、カームダウンを設けている。	今後も安全面に配慮しながら運営を行う。
	2	職員の配置数は適切である	○		保育士、作業療法士等を常時6名以上指導スタッフとして配置している。	他店舗と連携を取りながら運営を行う。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		絵カードなど視覚支援などの設備も完備している。移動手段が階段しかないが、必要な方には介助をしている。	個別療育の為、利用児童に合わせた関わりを行っていききたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		業務前に職員が清掃する事や空気清浄器を常に完備している。	確実に清掃を行い、子ども達が活動をしやすい環境で行う。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		全職員が同じシステム、同じ意図を持って支援にあたるように月2~3程度の研修で適宜意見交換を行っている。	他店舗と情報交換をすることや職員間での意見交換を行う。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		年度末にアンケートを記入して頂く。毎回、保護者の方には見学をして頂いている為、情報共有は出来ている。	今後も毎年アンケートで保護者の方に記入して頂き、療育の中で参考にする。また、療育前後で保護者の方と情報共有を取り、共有する。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページにて掲載している。	今後も保護者の方へ分かりやすい形で提示を行う。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	月2~3程度の研修を実施している。しかし、コロナの影響もあり、外部からの評価は難しい。	外部講師の方を招いた研修(コロナの状況に応じて)や他店舗との情報交換を行い、改善できる機会を設ける。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		自主的に外部研修をスタッフが受けに行く機会を設けているが、コロナの影響でほとんど実施できていない。月2~3程度の会社内の研修を実施している。	外部講師の方を招いた研修(コロナの状況に応じて)や外部研修を受けたスタッフとの情報交換できる機会を設ける。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		年に一回以上、確実にモニタリングを行っている。日々の療育のフィードバックにて保護者の方と情報共有している。	保護者の方と情報交換を行う中で、計画や療育を行う。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		標準化されたアセスメントツールは使用していない。	職員間でズレが起きてしまわないように、目標の統一化や、療育後に話す時間を設け、振り返りの時間を確保している。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
適切な支援の提供	12	児童発達支援計画には、「児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		運動・スポーツ指導を利用し運動機能の改善に留まらず、コミュニケーションスキルやソーシャルスキルの獲得、向上にも力を入れている。また、そのノウハウを、同席していただいている保護者の方と共有する事に力を入れている。	運動機能以外にもコミュニケーションスキルやソーシャルスキル等の様々な能力を保護者の方と共有し、子どもの成長を促す。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		児童発達支援計画に沿った関わりやプログラムを行い、支援している。	児童発達支援計画に基づき、子どもの成長を支援する。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		全利用者の指導方法をスタッフ全員で共有する機会を設けている。	成長に合わせた関わりや指導方法をスタッフで共有し、子どもの成長に繋げる。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		指導者だけがプログラムを決めず、子どもらの主体性や自立性からプログラムを提供する為、固定化しないように工夫している。	今後も様々なアイデアから活動プログラムの立案を行い、子どもの成長に繋げる。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		保護者へのアンケート調査や聞き取り調査をもとに個別指導や集団指導などを行っている。	保護者からの聞き取りから児童発達支援計画を作成する。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		必ずその日の利用する子どもの指導担当のスタッフを割り振り、役割分担を確認している。また、毎朝スカイプにて全店舗でのミーティングを行っている。	今後も職員同士で話し合う時間を多く設ける。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		指導スタッフが全スタッフの前で感想、気付き、問題点などを発表し共有している。	今後も職員間で情報を共有し、子どもを支援していく。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		利用実績記録表と併用して、ひとりひとりの指導記録を記入している。	今後も継続し記録を確実に記入する。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		6か月に1度の割合で聞き取り調査などで保護者の方と会話の時間をつくっている。また、必ず保護者の方が指導現場に同席されているので、毎回の利用で意見交換を実施している。	今後も保護者の方と情報交換を積極的に行い、児童発達支援計画を作成する。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携	21 障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		担当者会議の前に、職員で情報共有をしてから参加している。	子どもの情報を普段から職員に共有できるようにする。
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		特に支援が必要な児に対し、電話で子育て総合支援センターと連絡を取り、情報共有を行っている。	他の事業所や相談支援とは密に連携をとって支援出来ている。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		医療ケアの必要な児童の利用が無い。	医療ケアの必要な児童の利用が無い。
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		医療ケアの必要な児童の利用が無い。	医療ケアの必要な児童の利用が無い。
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		同伴されている保護者から随時情報を提供して頂いている。また所属されている施設からの見学もあり、支援の理解を共有している。	今後も保護者の方と情報交換を行い、支援の理解をして頂けるようにする。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		引き続き放課後等ピースプラントとして利用を継続して頂くことも可能。他の事業所との情報共有もしている。	今後も継続し子どもの支援を促す。
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		大阪市内の発達障害児をサポートする団体が集まる「ホットメールなにわ」の会合に定期的に参加し、情報収集している。	ピースプラント以外での情報を仕入れ、支援に繋げる。
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	障がいのない子どもと関わる機会は少ない。	障害の無い子どもとの交流機会はあまり設けていない。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		大阪市都島区の地域自立支援協議会児童部会には定期的に参加している。	今後も定期的に参加し、情報を共有を行う。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		指導場面に同伴されている保護者の方とは、毎回の利用の際に充実した意見交換を行っている。	今後も子どもの状況など把握できるように情報交換を行う。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている		○	ペアレントトレーニングは実施していない。	運動・スポーツに関する相談だけでなく、成長に役立つ情報をお伝えしている。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		館内掲示とともに毎回の契約時に適切な説明、理解を実施している。	不明な点が無いように保護者の方と確認を取りながら、説明を行っている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		支援計画を説明時に保護者の方に確認してもらいながら説明をしている。	今後も保護者の方に理解されやすいように説明を行う。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保育士や作業療法士などの専門的な職員を中心に随時適切な相談、助言を実施している。	保護者の方の悩みに対し、相談や助言が出来るように支援を行う。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	コロナの影響もあり、開催が難しかった。	今後は機会を作り(コロナの状況により)、保護者の方に参加して頂くように呼びかけを行う。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		児童発達支援管理者を中心に苦情に対しては、即時対応するようにしている。	今後も即時対応できるようにする。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		SNSやアンケートの結果を開示し、利用者に運営の意図や現状報告を知らせている。	今後も保護者の方に情報を開示し、説明を行う。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		確実に施錠できるロッカーに保管している。	施錠に忘れが無いように職員で確認を行う。
39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		毎回の利用時に必ず、保護者との直接会話の時間を作っている。	時間のある限り保護者の方との情報交換の時間を確保する。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関かれた事業運営を図っている		○	勉強会など参加しやすいようにしている。	コロナの状況を踏まえて、ピースプラント主催の勉強会や講演会を開催する。
非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		年に1回以上、利用されている児童と保護者同伴で、時間を取り、実施している。	今後も実施していきたい。
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年に1回以上、利用されている児童と保護者同伴で、時間を取り、実施している。	今後も実施していきたい。
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		事前に同伴する保護者の方に確認を行っている。	保護者の方に確認を行いながら、活動を進める。
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		基本的に食事の提供をしていない。	今後もそのような機会があれば、アレルギーの有無を確認し、いた場合は指示書を提出してもらおう。
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ファイリングし、全てのスタッフが確認出来るようにしている。	ヒヤリハットを職員で共有し、改善できるようにする。
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		月に一度の全体ミーティングにて研修を行うなどし、周知している。	全体ミーティングを通し、研修で学んだことを全職員で共有する
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		同伴する保護者がいる為、身体拘束が必要な利用者はいない。	保護者の方に確認を行う。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

別添資料5

公表:2021年3月1日

事業所名 発達支援ルームピースプラント 4くみ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		適切な環境で実施している。	今後も引き続き、安全面に配慮し運営していく。
	2 職員の配置数は適切である	○		保育士等を常時3名以上指導スタッフとして配置している。	必要な時には、他店舗の職員と連携をとりながら、フォロー体制を整えている。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		視覚支援を用いたり、情報が多くなりすぎないように、シンプルな部屋作りを意識している。また、1階の為、段差等も少なく、皆さんが利用しやすいような環境になっている。	個別療育の為、利用児童に合わせた関わりや環境設定を行っていききたい。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日、必ず清掃業務を行い、合間には換気や消毒を徹底している。	清掃はもちろん、安心して利用できる環境作りを徹底している。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		全職員が同じシステム、同じ意図を持って支援にあたるように月2~3程度の研修で適宜意見交換を行っている。	他店舗と情報交換をすることや職員間での意見交流、または研修なども、積極的に開催し、参加している。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケート実施以外にも、活動後に見学していただいた保護者の方との情報共有を必ず行っている。	今後もアンケートにご協力いただき、子ども支援内容についても意見をいただきたい。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページにて掲載している。	今後も保護者の方へ分かりやすい形で提示を行う。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	相談支援や他事業所の方に見学してもらう機会を設けているが、コロナの状況もあり、出来ていない事もある。	コロナの状況を考えながら、タイミングを見て実施していきたい。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		職員の資質向上を目的に1週間に1度、研修機会を設けている。現在は、コロナの影響もある為、リモートで実施している。	外部研修を受けた職員に関しては伝達講習の場を設けたり、向上に向けた研修を実施している。(現在はリモート)
10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		1年に1回以上、モニタリングで見直しや、保護者のニーズを聞き取りながら支援計画を作成している。	保護者の方と情報交換を行う中で、計画や療育を行う。	
11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	標準化されたアセスメントツールは使用していない。	職員間でズレが起きてしまわないように、目標の統一化や、療育後に話す時間を設け、振り返りの時間を確保している。	
12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		運動・スポーツ指導を手段とし運動機能の改善だけではなく、コミュニケーションスキルやソーシャルスキルの獲得、向上にも力を入れている。また、そのノウハウを、同席していただいている保護者の方と共有する事に力を入れている。	運動機能以外にもコミュニケーションスキルやソーシャルスキル等の様々な能力を保護者の方と共有し、子どもの成長を促す。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		療育前には、職員間で目標等を再確認した上で支援している。	児童発達支援計画に基づき、子どもの成長を支援する。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		全利用者の指導方法を、スタッフ全員で共有する機会を設けている。	全職員で立案を行い、子どもたちの支援に繋げている。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		職員と子どもが毎回プログラムを選択している為、固定化しないような工夫を行っている。	子どもの自主性も忘れず、アイデアを出して、活動していきたい。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		保護者へのアンケート調査や聞き取り調査をもとに個別指導や集団指導などを行っている。	保護者からの聞き取りから児童支援計画を作成する。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		当日の朝には、必ず全店舗でのスケジュールをラインで把握できるようにし、1日の役割分担も必ず実施している。	他店舗とも連携を取りながら、職員間のコミュニケーションを図っていききたい。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		その日の担当職員が、支援後に気付いた点や感想など、全職員の前で共有する時間を設けている。	今後も職員間で情報を共有し、子どもを支援していきたい。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		支援後には、全職員が確認できるフォルダに記録を入力し、日々より良い支援を提供できるようにしている。	記録の入力を必ず行っていく。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		最長6か月に1度のタイミングで保護者の方と会話の時間をつくっている。また、必ず保護者の方が指導現場に同席されているので、毎回の利用で意見交換や私生活での課題等を共有している。	今後も保護者の方と情報交換を積極的に行い、児童支援計画を作成する。
関係機関や保護者と	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		担当者会議の前に、全職員で情報共有をしてから参加している。	今後も継続して、会議前だけではなく、普段の支援時から、子どもの情報共有をしていく。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		○	実施していない。	今後、コロナの状況を見て、検討していきたい。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		医療ケアの必要な児童の利用が無い。	医療ケアの必要な児童の利用が無い。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を築いている	○		医療ケアの必要な児童の利用が無い。	医療ケアの必要な児童の利用が無い。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者の方からのニーズがあれば、園に訪問したり、先生方に支援中の様子を見学してもらう時間を作ったりもしている。	今後も保護者の方と情報交換を行い、支援を理解して頂けるようにする。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
の連携関係機関や保護者との連携	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		引き続きピースプラントとして利用を継続して頂くことも可能。他の事業所や相談支援との情報共有もしている。	今後も継続し子どもの支援を促す。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		大阪市内の発達障害児をサポートする団体が集まる「ホットメールなにわ」の会合に定期的に参加し、情報収集している。	ピースプラント以外での情報を仕入れ、支援に繋げる。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	機会が少ない。	現在はあまり設ける事が出来ない。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子どもの子育て会議等へ積極的に参加している	○		大阪市都島区の地域自立支援協議会児童部会には定期的に参加している。	今後も定期的に参加し、情報を共有を行う。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		支援場面に同席していただいている為、保護者の方との情報共有や園の先生方とも共有している。	学年や環境が変わっても、充実した情報共有を行っていききたい。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている		○	ペアレントトレーニングは実施していない。	運動・コミュニケーションだけではなく、将来を見据えて、目標や課題などはお伝えしていくようにしている。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		館内掲示とともに、契約時や、利用者負担額が発生したタイミングで丁寧な説明を行っている。	学年が上がるタイミングなど、不明点がありそうな保護者の方には特に必要な書類を準備し説明をしている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		支援計画の説明時には、時間を取って保護者の方の同意を得ている。	誰が聞いても理解出来るように、丁寧な説明や、理解しやすい目標設定を心掛けたい。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保育士や作業療法士などの専門的な職員を中心に随時適切な相談、助言を実施している。	保護者の方の悩みに対し、相談や助言が出来るように支援を行う。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	コロナの影響もあり、開催が難しかった。	コロナの状況を見ながら、開催を検討していききたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		児童発達支援管理者を中心に苦情に対しては、即時対応するようにしている。	今後も即時対応できるようにする。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		SNSを通して、運営状況を報告している。	今後も保護者の方に情報を開示していき、必要であれば説明もしていく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		確実に施錠できるロッカーに保管している。	施錠に忘れが無いように職員で確認を行う。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		保護者の方と話す時間を作り、必要であれば支援中にもコミュニケーションを取りながら進めている。	時間のある限り保護者の方との情報交換の時間を確保する。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	様々な方が興味を持ちやすいような、勉強会や研修など参加しやすいような場を設けている。	コロナの状況を踏まえて、ピースプラント主催の勉強会や講演会を開催する。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		年に1回以上、利用してくれている児童と保護者同伴で、時間を取り、実施している。	今後も実施していきたい。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年に1回以上、利用してくれている児童と保護者同伴で、時間を取り、実施している。	今後も実施していきたい。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		契約時に、服薬や病気、リスク等を聞き取り、把握している。	保護者の方に確認を行いながら、活動を進める。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		食事の提供をしていない。	今後そのような機会があれば、アレルギーの有無を確認し、場合によっては指示書を提出してもらう。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ファイリングする事と、全店舗職員での情報共有の時間を設けている。	大きな事故、怪我に繋がらないように、改善している。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		月に一度の全体ミーティングにて研修を行うなどし、周知している。	全体ミーティングを通し、研修で学んだことを全職員で共有する
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		同伴する保護者がいる為、身体拘束が必要な利用者はいない。	保護者の方に確認を行う。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。